



学校だより

10月号

横浜市立桜台小学校

令和2年9月30日発行

コロナ禍の秋 ～回り道にしか咲いていない花がある～

教務主任 早坂 考史

猛暑が過ぎ、朝晩の風に涼しさを感じる秋の季節となりました。

秋は一般的に、暑すぎず寒すぎず最も過ごしやすい季節といわれ、様々な魅力があることから「〇〇の秋」と表現されることの多い季節です。思いつくだけでもスポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋と多岐にわたります。例年は様々な文化が色づき、子どもたちの楽しい思い出へつながっていきます。しかし今年は、コロナ禍の影響により多くの制限がかかっているのが残念です。

スポーツの秋に思い切り体を動かしたいところですが、地域のスポーツ団や中高生の部活動にも厳しい制限がかかり、いまだ自由な練習や対外試合ができないところも多いそうです。学校でも体育の授業やクラブ活動で三密を回避した活動内容になるように配慮しています。

11月に開催される運動会では、感染症対策の観点から競技内容を見直し、徒競走のコース数を半分に一度に走る児童の数を減らしたり、接触が避けられない団体競技などを中止にしたりしました。応援団では、全員で大声を出す形ではない新しい応援の形を応援団の子どもたちと考えていく予定です。また、参観していただく方にも密を避けるため、1家庭1名という人数制限をさせていただきます。一方で、今年から個人種目として縄跳びを導入しました。一斉休業中の体力づくりの取組を生かし、なおかつ間隔をとって競技するために考えたものでしたが、徒競走との選択制にしたことにより子どもたちの新しい可能性を生み出す競技になると期待しています。

「塞翁が馬」という故事成語があるように、逆境の時は、今までになかった新しい発想や取り組みが生まれるチャンスともいえます。4年生以上が参加するクラブ活動の一つバスケットボールクラブでは、接触が多い試合形式の活動ができないため、6年生を中心に話し合い、ドリブルリレーやフリースロー大会といった新しい方法を取り入れて工夫しています。自分たちで活動内容を決めていく自主性が育っていると感じます。

できないことを嘆き悲しむのではなく、今だからこそその新しい挑戦や楽しみを追求していく気持ちがこの時代には必要だと考えます。外食できないから自分で料理することに目覚めたり、外出できない時間に読書を楽しんでみたりする好奇心が人生を豊かにするのではないのでしょうか。目的に向かって一直線に進むだけが人生の成功ではありません。回り道には、回り道にしか咲いていない花があります。その花の綺麗さに気付く心の余裕を育てたいと思います。この社会情勢だからこそその「自分なりの秋」を見つけていきたいものです。

